

遠隔教育推進事業の経緯

(1) 事業開始時の現状・課題

- ◆中山間地域の小規模高等学校では、生徒数が少なく教員の配置数が限られるなか、中心部の大規模校のように、大学の受験に必要な科目をすべて開講することは困難な場合が多い。
- ◆地元を離れて高等学校に進学する生徒もおり、中山間地域の高等学校の生徒数が減少している。

(2) 経緯

H30. 12月 県立高等学校再編振興計画（後期実施計画）策定

IV-1：ICTの活用による中山間地域の高等学校の教育の充実

(4) 今後の方向性 イ 遠隔教育の実施

「県教育センターを配信拠点とした遠隔授業・補習授業を全ての中山間地域の高等学校に展開することができるよう、実施体制の構築や機器・通信網の整備を促進する」

R元. 4月 教育センター内に遠隔教育等を担当する次世代型教育推進部 設置

→ (令和元年度) **中山間地域の全ての小規模高校(10校)に遠隔教育システム導入**

R2. 3月 教育委員会規則「高知県立高等学校における遠隔授業の実施に関する規則」公布

R2. 4. 1 教育センター内に「遠隔授業配信センター」設置

→ (令和2年度) **中山間地域の高等学校で単位認定を伴う遠隔授業を開始**

県内全ての小規模高校等に遠隔教育システムを導入

→ (令和3年度～令和5年度)

文科省研究事業「COREハイスクール・ネットワーク構想」受託

(令和5年度) 遠隔授業配信センターからの遠隔授業：16校に対し延べ34講座

遠隔教育システムを活用し、遠隔授業配信センターから、全ての小規模高校に対して難関大学への進学等の生徒のニーズに応じた授業や補習等を配信し、**学校規模や地域間における教育機会の格差の解消**を図る。

令和4年度の実績

- ① 2教科で同時配信、3校同時配信の研究
- ② 学校相互型配信試行、魅力化・特色化の実践

令和5年度の実施予定

- ① 学校相互型配信の本格実施
- ② 科目及び同時配信の拡充

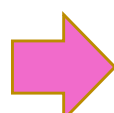
1 全ての小規模高校に遠隔授業等の配信

- ◆ **配信拠点型遠隔授業** 遠隔授業配信センターから14校に対し、延57名に23講座、週74時間
- ◆ 教育センター内に、**スタジオを増設し**遠隔教育システムを整備

教科等	配信先
数学	中芸高校、城山高校、高岡高校、窪川高校、四万十高校、大方高校、西土佐分校 「 構原高校、宿毛高校 」同時配信
理科 物理・生物	嶺北高校、清水高校 「 室戸高校、構原高校 」同時配信
英語	中芸高校、吾北分校、佐川高校、窪川高校、四万十高校、西土佐分校

※本校・分校間における授業の配信
追手前高校→吾北分校

- ◆ **遠隔補習等**
全ての小規模高校等、18校に配信
 - ・大学入試対策補習
 - ・グループワーク型受験対策補習
 - ・公務員試験対策補習
- ◆ 遠隔教育システム未導入の須崎総合高校・安芸高校の試行
- ・英検二次試験対策補習
- ・危険物取扱者試験対策補習
- ・キャリア教育講演会



◆ 配信拠点型遠隔授業

	R4 (実績)	R5	R6 (予定)
遠隔授業時間数	14校74時間	16校102時間	16校104時間
複数校同時配信等	同時配信を2教科で実施、うち1講座では3校同時配信を試行	「情報Ⅰ」新設、同時配信を2教科3科目で計画	「情報Ⅰ」拡充3校(12単位)→5校(18単位)

◆ 遠隔補習等

- NEW 公務員試験対策補習：県都から離れた地域の**高等学校への拡充**（遠隔教育システム未導入での受講）
- NEW キャリア教育講演会：**全ての高等学校への拡充**（ライブ配信に加え、録画視聴）

2 高知版CORE遠隔教育ネットワーク構想

※文部科学省研究指定事業「地域社会に根ざした高等学校の学校間連携・協働ネットワーク構築事業（COREハイスクール・ネットワーク構想）」の最終年度（まとめ）

目的

高知県西部に位置する幡多地域等の高等学校に遠隔教育ネットワークを構築し、個々の高校の教育水準の維持・向上から、**ネットワーク全体としての教育水準の維持・向上**へと取組を発展させ、地域間格差を解消し生徒の進路希望を実現する。

- ・有識者による**CORE遠隔教育評価委員会**による外部評価
- ・**高校魅力化評価システム**による検証

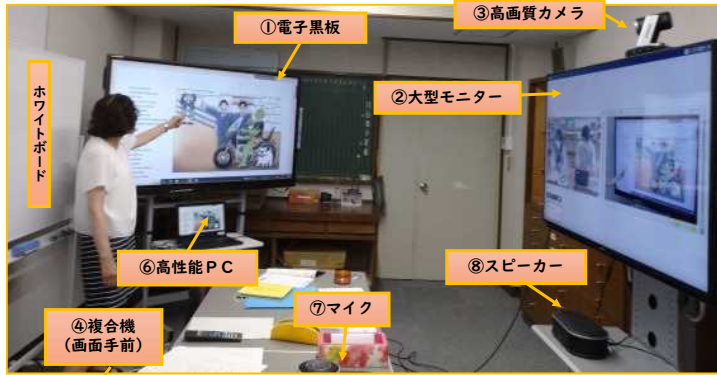
構成校

清水高校、宿毛高校、宿毛工業高校、中村高校、中村高校西土佐分校、幡多農業高校、大方高校、窪川高校、四万十高校、遠隔授業配信センター

		R4	R5 (研究指定最終年度)	R6以降
遠隔授業	配信拠点型	6校 R3遠隔授業実施5校（窪川、四万十、大方、西土佐、清水）に、宿毛追加	拡 8校 幡多農業、宿毛工業追加	幡多ネットワーク構築済み R6 高吾ネットワークの構築 R7 安芸ネットワークの構築
	学校相互型	4科目試行 ①宿毛高校から西土佐分校に 書道Ⅰ を配信、②宿毛工業高校から清水高校に 情報Ⅰ を配信、③幡多農業高校から窪川高校、四万十高校に 農業科目 を配信、④中村高校本校から西土佐分校へ 数学Ⅱ を配信	NEW 4科目本格実施	継続・拡充
地域課題探究学習発表会等、構成校の魅力化・特色化	各校・各地域での探究学習発表会、県内外大学生による活動支援	構成校主催の地域課題探究学習発表会、県内外大学生による活動支援	コンソーシアム会議と連携した地域課題探究学習発表会の開催や魅力化・特色化の推進	

高知県の遠隔教育システム機器

配信スタジオ



- ①電子黒板とホワイトボードを授業場面により、使い分け
- ②カメラのプリセット機能で、ボタン一つでカメラの向き（画角）を操作
- ③授業で使用するプリント等は、複合機で送受信
- ④PCにGoogle教員用アカウントを使用してログインすると、チャムボード等も画面共有が可能
- ⑤集約マイク&エコーキャンセラー等の機能付きスピーカー

配信側と受信側に同じICT機器

高知県の遠隔授業

遠隔授業の様子（受信側）



配置は異なるが、配信側と受信側に同じICT機器

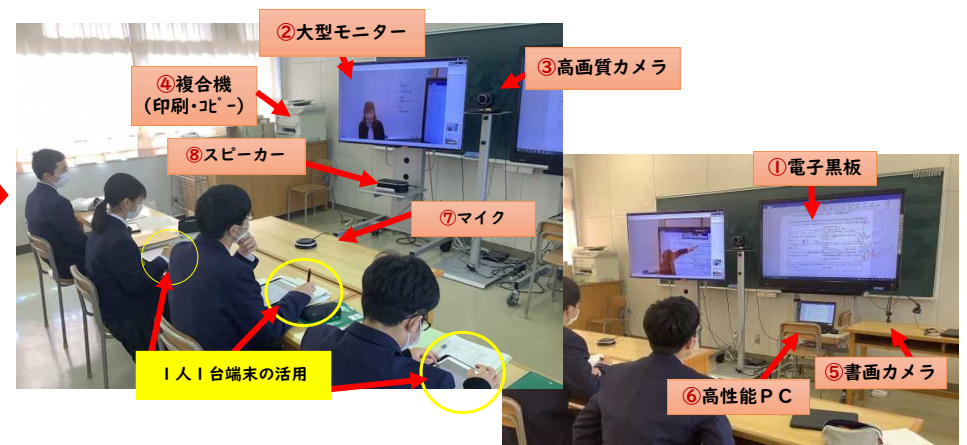
※ 本県の遠隔教育システムは、対面授業に近い形で受信校で遠隔授業が受講できるよう、大型モニターや電子黒板などの機器を配信側・受信側双方に整備し、授業力が高く進路指導に定評のある教員の授業を配信することで高知市内の進学校との指導環境の差を縮め、小規模校の生徒の進路実現を目指すものである。

配信スタジオ



書画カメラ（実物投影機）を使って
演示実験を実施

遠隔授業の様子（受信側）



1人1台端末の活用